

## 第121回日本医史学会総会に参加して

松木 宣嘉

第122回日本医史学会実行委員長／四国医療専門学校

COVID-19 パンデミックによって日常が変容した2020年、第121回日本医史学会総会も大きく影響を受け、当初の5月30日(土)、31日(日)開催が12月19日(土)、20日(日)に延期され、その後12月19日(土)から28日(月)までのオンライン開催となりました。初のオンライン開催ということで、運営の先生方には大変なご負担があったかと思います。無事に開催して頂けたこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

大会ホームページにも書かれていましたが、オンラインでの学会開催は従来の討論が出来ないのではとの懸念もありました。しかしオンライン開催では講演動画は戻して再視聴が可能であり、スライドは大変見やすくメモも取りやすく、大会期間が10日間用意されていたことですべての演題をじっくり拝見することができました。心配されていた討論も質問・討論箱にて意見交換が出来たため、結果としてオンラインの良さを感じることが出来ました。

坂井建雄理事長講演では「現代医学のルーツはどこにあるのか」と題し、進歩し変化し続ける現代医学の発展史について腎臓病の歴史の変遷を例としてお話下さいました。特別講演では、松木明知先生が華岡青洲研究の新知見について、また青州が影響を受けた吉益東洞との関係についてご講

演頂きました。教育講演Iでは小林晶先生により中村裕博士が1964年に東京で第2回パラリンピック大会開催を実現する功績についてご講演頂き、教育講演IIでは、山本保博先生が国際医療協力における5つの壁について、災害現地での豊富なご経験を交えてお話し頂きました。

大会長の弦間昭彦先生は日本医科大学前身の済生学舎出身である小口忠太、須藤憲三、野口英世、浅川範彦の4名を中心にご講演頂き、学是である「克己殉公」が貫かれていることを実感致しました。基調講演、シンポジウムは済生学舎創立者である長谷川泰とその周辺人物についてご講演頂き、志村敏郎先生は長谷川泰が「済世救民」に至る当時の医療背景を中心に、澤井直先生は佐藤尚中、藤倉輝道先生は後藤新平、森田鉄平先生は野口英世、檀原宏文先生は北里柴三郎との関係についてお話し頂きました。

一般演題については個人的な興味ではありますが、近代の研究が比較的多くみられたことが印象的でした。今日に直接繋がる内容であるため興味深く学ばせて頂きました。

最後になりましたが、ご後援を頂きました各団体の皆様方に厚く御礼申し上げると共に、未曾有のパンデミックの中で開催にご尽力頂きました弦間昭彦会長ほか実行委員の先生方に、重ねて謝意を表したいと思っております。